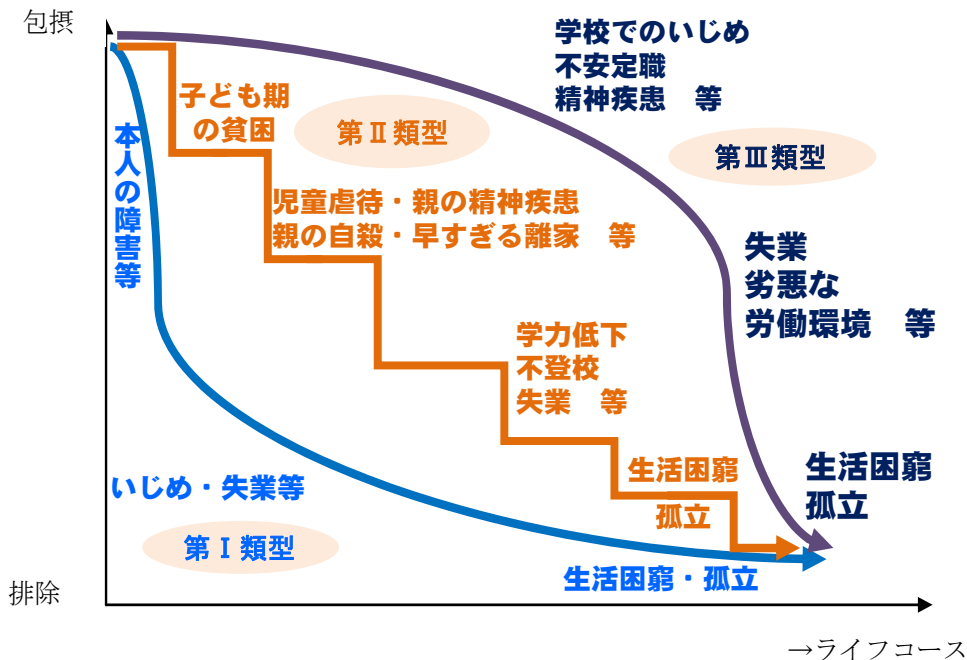


# 社会的排除に至るプロセス～若年ケース・スタディから見る排除の過程～ 概要

2011年度調査実施

- 「社会的排除」について、さまざまな社会問題(高校中退、ホームレス、非正規就労、生活保護受給、シングルマザー、薬物・アルコール依存症、自殺)を抱えた若年(18歳から39歳)者の事例53件のライフコースを丁寧に分析し、「社会的排除」に至る幼少期からの潜在リスクとその重なりを把握し、共通点・相違点を洗い出したもの。
- 調査対象となった事例が抱える潜在リスクは重複しており、「社会的排除」に至ったプロセスも類似している。これら社会問題は、従来はそれぞれ独自にとらえられてきたが、「社会的排除」という一つの社会問題としてとらえることができる。
- 「社会的排除」に至る一番大きな問題(キー・リスク)を、それが起こるライフステージと場所によって以下の3つに分類
  - 第Ⅰ類型: 知的障害や発達障害などの「本人の持つ「生きづらさ」」…もっとも早い時期に問題が表出
  - 第Ⅱ類型: 子ども期の貧困や児童虐待などの「家庭環境の問題」…子ども期に問題が表出
  - 第Ⅲ類型: いじめや不安定就労などの「学校や職場の環境の問題」…就労など比較的遅い時期に問題が表出
- リスクの共通性、複合性を念頭においた包括的な「社会的包摂政策」が必要

## 社会的排除のプロセス：3つのパターン



## 事例に見られた「社会的排除」の潜在リスク

本人の障害	親の自殺	若年 シングルマザー
出身家庭の貧困	学校中退	親との断絶
児童虐待	初職の挫折	薬物依存症 アルコール依存症
親の精神疾患	不安定就労	住居不安定

### 3つの類型ごとの包摂政策の方向性に関する調査担当者の提言

- 障害の早期発見、適切な福祉・教育・医療のプログラム
- 家庭への生活支援、居場所の確保
- 教育現場や地域企業・自治体との連携・対応